

3 多品種と少量生産が可能な生産方式

メーカーの使命は「良いモノを、安く、タイムリーに」提供することと考え、グローバルでさまざまな製品ラインアップに対応する幅広い生産ラインを保有しています。乗用車用、トラック・バス用のサマー／オールシーズン／ウィンタータイヤ、そしてモータースポーツ用タイヤまで、地域ごとに異なるニーズに対応するべく、スピーディーかつ柔軟に生産能力を拡大できる独自の多品種少量・小規模生産方式を採用し、日系タイヤメーカーとして初めてベトナムに進出しました。細かい需要に対応できる多

品種少量生産方式は、当社の強みとして競争優位性につながっています。生産拠点においては、ジャストインタイム生産などを組み合わせることで、需要の変動に迅速に対応しながら、多様な製品を効率的に生産することができます。

生産にはデジタル技術も積極的に活用しており、生産計画や生産ラインのモニタリングにおいて、リアルタイムの情報を活用することで、生産プロセスの可視化と最適化を図っています。データ分析や予測モデルの活用により、需要予測や生産計画の最適化を行い、より確度の高い多品種少量生産体制を実現しています。

4 市場ニーズにタイムリーに応える 研究開発体制

横浜ゴムは、市場に近い地域にタイヤ研究開発拠点を設置することで、現地のニーズに合ったスピーディーな新商品投入を進めています。グループ全体では、日本、タイ、中国、米国にタイヤ研究開発センター、日本、タイ、スウェーデンに4つの総合タイヤテストコースを設置しています。

また、早くから新たな技術や素材の開発に取り組んでおり、環境負荷の低いサステナブルな素材への需要の高まり、エネルギー効率の向上、自動車業界のデジタル化など、市場のニーズや社

会的な環境課題に対応するための技術革新に取り組んでいます。これまでも2014年にタイヤ周りの「音」を可視化するシミュレーション技術を世界で初めて実現するなど、高度なシミュレーション技術を駆使して他社の先駆けとなる技術を開発してきました。タイヤ設計においても新しい視点である「エアロダイナミクス技術」を取り入れ、タイヤの空気抵抗低減だけでなく車全体の空気抵抗低減を目指した製品開発に取り組んでいます。

また、情報管理システムやデータ解析の能力強化にITを活用しており、その一環として、膨大な仮想実験を可能とするデジタルAIを活用したタイヤの特性値予測システムを独自に開発し、多岐にわたるタイヤ開発に役立てています。

5 充実したグローバルネットワーク

横浜ゴムは、世界各国で事業展開を行っており、グローバルネットワークとして世界各地に47の生産販売拠点と50以上の販売拠点*を有し、地域のニーズに合わせた製品やサービスの提供、効率的な生産体制、革新的な技術開発などによって、企業の成長と地域社会への貢献を支えています。国内11工場、海外36工場の生産拠点*でタイヤやゴム製品の製造が行われ、現地の需要に十分に答えるだけの生産能力を提供しています。日本だけでなく、アジア、ヨーロッパ、アメリカなど、世界各地に生産拠点を持つことで、地域ごとの要求に対応しています。2022年は、YOHTの生産能力増強のため、新しく建設したインドのヴィシヤカ

パトナム工場で生産を開始しました。2024年はさらに乗用車の生産ラインも増強予定です。

グローバルでのセールスネットワークは、販売拠点、代理店、ディストリビューターなどが含まれており、世界中の自動車メーカーや一般消費者、事業者に向けて製品を提供しています。セールスネットワークを通じて、横浜ゴムは多くの地域で製品と、市場ニーズに合わせた販売戦略を展開しています。さらに、自動車メーカーや部品サプライヤー、研究機関、大学などとパートナーシップを構築し、連携を図っています。これにより競争の激しいグローバル市場においていち早く環境に対応し、製品や販売に反映できる体制を整えています。

* 2023年8月1日現在